

病院を核としたまちづくり推進特別委員会記録

開催日時 平成27年9月11日(金) 10:05~10:43

開催場所 第1委員会室

出席委員 8名

森山 賀文 委員長
池田 慎久 委員
中川 崇 委員
大国 正博 委員
中野 雅史 委員
荻田 義雄 委員
出口 武男 委員
山村 幸穂 委員

欠席委員 1名

小泉 米造 副委員長

出席理事者 渡辺 医療政策部長 ほか、関係職員

傍聴者 なし

議 事

(1) 9月定例県議会提出予定議案について

(2) その他

<質疑応答>

○森山委員長 それでは、ただいまの説明、またはその他の事項も含めまして、質疑があればご発言願います。

○中川委員 この資料ではないのですがけれども、1点だけ要望としてお伝えさせていただきます。現在、新奈良県総合医療センター及びアクセス道路の建設に関しまして、建設の状況や見通しについて、住民に対する情報提供の点で、奈良市側と大和郡山市側で温度差がありまして、資料が住民に行き渡っているとか行き渡っていないとか、そういった点で温度差がございます。これは自治会のあり方にも関連する問題であるとは思いますが、住民側が不安を抱かないように何かしら工夫をしていただきたいと思います。以上です。

○森山委員長 要望ということで、これはよろしいですか。

○中川委員 はい。

○森山委員長 では、よろしく申し上げます。

ほかに、先ほどの説明も含めて、質疑があればご発言を願います。

○大国委員 おはようございます。

1月23日に奈良市と奈良県でまちづくりに関する包括協定を締結になりました。この中で、当委員会で議論しております平松周辺地域も入っていきまして、その資料を見ますと、これまで議論してきた中身等がイメージ図の中には落とされてるということで承知しておりますけれども、今この協定後、奈良市との協議がどのように進んでいるのかということと、このイメージ図に落とされている、例えば暮らしの保健室であったり健康増進、あるいは認知症対策、子どもの見守り、また医療、マイ健康カード等々、幅広い項目が入っていますけれども、こういったまちづくりの総合的な取り組みについて、県としては、地域包括ケア推進室でやっていらっしゃるのか、もちろんまちづくりで先進的なものを進めていただいておりますけれども、どちらが窓口になっていらっしゃるのかを、1点確認させていただきたいと思います。

○中川医療政策部理事 それでは、お答えさせていただきます。

1月23日に奈良市と包括協定、これは4地区かと思うのですが、窓口は地域デザイン推進課でやっていただいているのですが、平松地区が入っているということで、進め方について奈良市と協議を続けていただき、奈良市側の体制といたしまして取りまとめを保健福祉部でやっていただくと。当然、そこに総合政策部、あるいは関係課が皆入っていくという体制をとっていただきました。実際には、夏前から奈良市と定期的に協議を進めかけておりまして、もう1～2回やっているのですが、その中で、進め方等について協議を進めているところでございます。奈良市側の窓口は、保健福祉部が担当ということでございます。

実際に、まちづくりをどう進めていくかということでございますけれども、住民の方も入っていただくまちづくり協議会を立ち上げておりますので、そのまちづくり協議会につきますして、今年度に入ってから実施させていただいております。従来からやっているのですが、3つのワーキンググループを立ち上げさせていただいて、住民の方も3つのグループにそれぞれに入ってください。それと、県側の担当課、奈良市側の担当課もそれぞれ入っていくということで、医療と介護、健康づくり、子育てについて、それぞれ議論を重ねていただいております。包括協定で進められた、一つの例示とはなりますけれども

も、これから議論を重ねる中で深掘りをしていって構想でまとめていきたいと、議論を進めているところでございます。

ちなみに、その中の1点、暮らしの保健室の活動につきましては、地域の方のボランティアグループを立ち上げていただきまして、もう何回か地域で暮らしの保健室の活動、実際には、ミニ講演会と相談会みたいなことを月に1回、あの地域で取り組んでいただいているところでございます。以上でございます。

○大国委員 ありがとうございます。今後、まちづくり基本構想も策定されるということでもありますけれども、今、進んでいるところであったり取り組んでいるところの話を少ししていただきましたけれども、どんどんそういった情報を発信していただいて、イメージ的に進んでいるということを県民の皆様にも、この暮らしの保健室といってもなかなか、地域の方は少しずつご理解いただいているとは思いますが、全く地域外の方は、何のことかという方も中にはいらっしゃると思いますので、この地域で進んでいる部分については、どこかのホームページやSNSなど、いろいろなものを使って発信することがいいのではないかと。秋山先生のところの保健室も、たびたび見ておりますけれども、非常にきめ細かな活動をされていらっしゃると思います。発信もされていらっしゃる。そういうのを見ているとイメージが湧いてくるのです。だから、せっかく皆さんに協力していただいて進みかけている部分というのは、広く広報していただければ非常にいいと思いましたので、これはまたご検討いただければと思いますので、よろしくお願いします。以上です。

○山村委員 今の質問にも関連いたしますが、県は、この平松地域のまちづくりについて、地域包括ケアシステムのモデル事業を実施する地域だと位置づけておられます。そこで、地域包括ケアシステムそのものを推進していくという点で、具体的にはどういう取り組みがされているのかを伺いたいと思うのです。そこで県が進めようとしている地域包括ケアは、介護が必要になっても住みなれた地域でずっと住み続けられて、医療、介護、予防、そういうものを一体的に提供される地域づくりと聞いているのですけれども、そういう目標があって、それに向けた取り組みとしての具体的な中身はどのように検討されているのかをお聞きします。

○中川医療政策部理事 お答えさせていただきます。

まさに委員がおっしゃるとおりでして、この地域包括ケアをまちづくりという観点で進めていきたいということで取り組んでおります。もちろん高齢者を支える仕組みづくり、それから見守りももちろん中心になるわけでございますけれども、まちづくりでございま

すので、その中に健康づくりへの取り組みであったり、子どもが安心してこの町で暮らしていけるような取り組みであったりと、そういったいろいろな要素が入ってきてまちづくりになる。もちろんその中にはソフト面の取り組みプラス、ハード面の取り組みも入ってくるということで、さまざまな要素が入ってきております。平松町での取り組みにつきましては、4万平方メートル余りの県有地がありますので、そこに施設整備も含めて地域包括ケアのまちづくりの取り組みを入れていきたいと。

また、県内ほかの地域では、ハード整備を直接しなくてもソフト面での取り組みの地域包括ケアのまちづくりをするところもございますので、さまざまなパターンのモデルをこれから順次つくって県内に広げていきたいと、そういう考え方のもとに進めております。以上でございます。

○山村委員 考え方という点では従来から聞いていますので、そういう中身だということとはよくわかっているのですが、実際に今、基本構想をつくろうという段階に来ている中で、具体的にどのようになっていくのかが本当に見えてこないという状況があると思うのです。

その地域での包括ケアということを実際にやろうと思ったら、地域にどんなニーズがあるのか、現状を的確に把握するということとやっていかないといけないということでは、例えば、介護保険事業計画をつくる時には、その地域の日常生活圏域のニーズ調査もやっておりますが、そういうものを利用するとか、あるいは地域で実際に介護に携わっていたり、医者であったり、リハビリの方であったり、訪問介護をやってる方であるとか、そういう人たちを集めた地域ケア会議を推進していくと県も言っていますけれども、そういう専門家集団の会議をその場で開いて、そこで具体的な問題は何なのか、この地域ではこれだけ高齢者がいて要介護の方がこれだけいらっしゃるのだからこういう施設がこの規模で必要とか、どういうシステムが必要かというようなことを具体的に話し合っていくとか、見えるように、実態がわかるようにしていくということがないと、なかなか問題が整理されて具体的な話に進んでいかないのではないのかと思うのです。

県は、いろいろワーキンググループをつくっていただいたり、住民の方も入った形での話し合いもやっていただいているのはよく知っているのですが、もうこの段階に来ているので、やはり専門家集団の方々が実際の実態調査も含めて目標なり政策なりの提言ができるような形の整理を今やっていかないといけないのではないのかと思っているのですが、その辺のところについて、どのように進んでいくのか、見通しというのか、お聞きしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○中川医療政策部理事 まさに、どういうニーズがあって資源がどうなっているかとあわせて、専門家といいますか、地域包括ケアにかかわる専門職種、これは多職種にわたりますけれども、こういう方とネットワークをつくっていくというのはおっしゃるとおりでございます。実は、昨年度から奈良市で医師会とタイアップをいたしまして、多職種の連携会議、いわゆる勉強会を立ち上げていただきました。今年度も実施する予定と聞いておりますので、こういう多職種の連携をするネットワークの会議を続けていただく、それできればエリアできめ細かく続けていただくということがまず1点大事ななことかと思っております。そこに、まちづくりですので、平松地区は県有地ですので、アイデアを出していく形になりますけれども、どういう機能をここに集約していくのがいいのかということと、ネットワークで取り組んでいる奈良市の取り組みをマッチさせていくと。基礎的なデータはほとんど奈良市で持っており、奈良市で承知していただいておりますし、場合によっては、奈良市で不足する医療関係のデータは、県が得意ですので、このデータも加味して議論していくのがいいのかと思っております。以上です。

○山村委員 そういう検討の過程というのか、専門家の方々の積極的なかかわりを要請して生かしていくというような形でして初めて、住民の方もどのように参加していけばいいのかということのイメージが湧いてくると思われますので、そういうものを出していただくということをお願いしたいのと、やはり中心は奈良市だと思うのですね。さっきもおっしゃったように、データは奈良市が持っているし、実際の活動もほとんど奈良市がやられることなので、今まで以上に奈良市との関係というか、奈良市が主体的に取り組んでいくという形をぜひとも進めていただきたいことをお願いしておきます。以上です。

○池田委員 1点質問をさせていただきたいと思えます。

今の平松地区の病院の件でございますが、今後整備が進められていく中で、今、基本構想に向けて鋭意協議を地元の町作り協議会を含めてやっている段階でございますが、将来的に六条地区の新病院ができ、そちらに移転し、取り壊して、新しい施設整備が進んでいくわけですけれども、病院を取り壊した跡です、この土地利用に当たっては、やはり病院跡地ということで土壤汚染の心配が大いに危惧されると考えております。現段階で、県としていつごろに土壤汚染の調査をし検証していくのか、そのあたりについてお考えをお聞かせいただきたいと思えます。

○野村病院マネジメント課長 池田委員から奈良県総合医療センター跡地の土壤汚染、その対策につきましてご質問をいただきました。長年、病院敷地であった土地につきまして

は、土壌汚染のリスクが他の一般的な用途地よりも高いと認識しております。建設中の新奈良県総合医療センターにつきましては、平成29年末に完成予定で工事が進められております。その後、病院の移転作業を経た上で、現奈良県総合医療センターの解体撤去となる予定でございます。基本的には、解体撤去後に土壌汚染調査を実施したいと考えております。以上でございます。

○池田委員 ありがとうございます。しっかりと調査をしていただいて、計画的に進めていただきたいわけですが、私の知るところでは、もちろん他の県でございますけれども、民間に土地を貸すという計画がその病院跡地にあったようでございますが、取り壊して調査をしてみると、土壌がかなり汚染をされてるということで、その契約そのものが履行できるかどうか危ういとか、あるいは、急ぐために金額でいうと5億円、6億円の処理費用がかかるとかいうことで、やはり病院跡地の汚染に対しては非常に敏感になってるということもありますし、高いリスクが今ご答弁にあったようにあると考えております。その事例でいいますと、土壌汚染が見つかったから、過去の病院関係者にずっとさかのぼって聞き取りをしたと。例えば、注射針を地中に埋めたのではないかと、汚染の可能性はなかったのか、あるいは、どの場所でそういうことが行われていたかということもずっとさかのぼって聞き取りをしたということもございます。当然、それにおいても費用、日数もかかるわけでございますから、具体的な調査は取り壊してからに当然なってくるわけでございますけれども、そういった可能性がないのかとか、その辺のリスク的な部分を事前に、そういった聞き取りはこれからでもできることだろうと思っておりますので、一度そのあたりもしっかりと検証していただきながら、後の土地利用、活用に支障を来さないように、おくれを来さないようにしっかりと計画的に進めていただきたいことを要望したいと思います。よろしく申し上げます。

○荻田委員 1点だけお願いします。

今、新病院の建設が平成29年度に完成することに伴って、平松地区におけます今の病院の跡地利用についていろいろと協議をしていただいていること、承知しているところでございます。先般の当委員会の県内視察で、大阪市の上本町にある日赤跡地の施設も見せていただきました。なるほど、関電不動産、あるいはそういった人たちがやればこんなことができるのだ。それからもう1点は、高齢者、あるいは医療施設が充実しているのだと、そんな思いを新たにしておりますが、そういうわけにはなかなか立ち行かない状況がこの平松地区にはあるように思います。一番の問題は、医療施設の充実を何としてもつくり上

げてほしいという願いが当初からありました。これからまちづくり協議会の中で、いわゆる基本構想、そういったものが出てくるかと思えますし、山村委員からお話があったように、地域包括ケアシステムの導入によってお年寄りや子どもたち、弱者に至るまで、本当に、住んでよかったと思われるような施設を整備をされるという構想もあるようでございますけれども、この医療施設については、奈良市医師会がどのような形でかかわっていただけるのだろうか。そして、県としてどういう方向性をお持ちなのか。この1点、お聞かせください。

○中川医療政策部理事 お答えさせていただきます。

まず、大事なことは、地域包括ケアを進めるに当たりまして、医療が真ん中にあると。どんな形が真ん中か、いろいろあるのですけれども、これは必ず必要ということ、医療のない地域包括ケアはないということでまちづくりは進めたいということで、平松地区も、医療があってまちづくりがあるという認識で進めようと思っております。その上で、現在は奈良市医師会の担当の理事の先生方と、まだ具体的にこういう形というところまで行っておりませんが、今後どのような医療をあそこで展開できるのかということで、会議を1～2回持っております。今後も構想づくりまでに奈良市医師会の先生方と、総論賛成、各論反対になると困りますので、意思疎通をしながら協議を進めていきたいと思っております。以上です。

○荻田委員 今、中川医療政策部理事から医師会との協議をしていくということでございますけれども、一番大切なこと、県の一方的な判断でああいったところに移転されたということが大きな要因であったわけですし、そういった中で、医師会とも協議をすると。ぜひ一つ、何としても身近な医療施設をおつくりいただけるようお願いしておきたいと思っております。

それから、地域包括ケアシステムの導入については、奈良市保健所、保健所の保健師、あるいは奈良市保健福祉部を中心に県、市、さらには地元といろいろな協議をやる中でも、ワーキンググループや、地域でのまちづくり協議会などにおいて、どんな問題点が出てくるのか、この委員会でも資料として今後お出しいただきたい。それによって、こういう点はどうかという議論の場にもなっていくかと思っておりますので、医療政策部長、しっかり対応していただきたい、このように思います。

それから、もう1点だけ、橿原市の県立医科大学の跡地、いわゆる研究棟の移転に伴ういろいろな諸施設、そして病院を核とするまちづくり、新駅構想もございますけれども、現

状あるいは進捗、わかる範囲で結構ですからお答えいただきたいと思います。

○中川知事公室審議官（医大・周辺まちづくりプロジェクト担当）兼まちづくり推進局長兼医療政策部次長 県立医科大学の整備につきましては、前回の委員会でも委員からご質問いただいていると思います。まだ2～3カ月しかたっておりませんので、具体的に何か目をみはるような動きはございません。ただ、前回もご答弁させていただいたとおり、粛々とやっているという状況でございます。

それと、当委員会の書簡ではないのですが、「9月定例県議会提出予定議案の概要」の8ページを見ていただいてもいいと思います。

（「何ページ」と呼ぶ者あり）

8ページです。

直接この委員会ではなくて、厚生委員会の所管になりますが、県立医科大学のハードの関係でございますけれども、2つ補正予算をお願いしています。一つは、県立医科大学附属病院の本館、A棟という古い建物がございまして、A棟が、来年の秋に向けてE棟をつくって移転をするということでございまして、そうしたら、A棟の3階から7階部分につきましては、空きスペースができる。それをいろいろ有効的に活用したいと。病院としては、耐震基準を満たしていませんので最終的には除却する形になりますけれども、その間いろいろな使い方ができるのではないかと。ご存じのように県立医科大学は、所狭しと建物が建っております。何をするにしろ、仮設のスペースが要りますので、そういうことも含めてA棟を有効的に活用していきたいということで検討を進めさせていただきたい。それともう一つ、ドクターヘリのヘリポートを県立医科大学附属病院の病棟の上につくっていきたい。それについて具体的に検討していきたいという状況でございます。

それと、新駅につきましては、知事が先頭立って近鉄としっかり交渉していこうとおっしゃっておりますので、同じような形で知事のサポートをして、近鉄とも交渉していくという状況でございます。特に目新しい動きというのはなく、長期のプロジェクトになりますので、そういう意味では粛々とやっていくと。

それと、新キャンパスになりますけれども、地元に入って本格的にことしの秋以降、用地交渉を進めて、不整形な農業研究開発センターでございますので、少しでも整形にしていこうことをあわせてやっていくということでございます。以上でございます。

○荻田委員 よくわかりますけれども、檀原市と十分、地元のご意向もあるようですし、新駅の設置がどういう形でやられるのか、これも知事の思いと近鉄の思いは随分かけ離れて

いると思いますけれども、奈良県の医療施設の最大拠点であります県立医科大学、あるいは附属病院の玄関口として再整備を図るという意味では、まことに結構なことではないかと思しますので、橿原市や地元、それぞれ関係団体としっかり調整を図られるようお願いして終わりたいと思います。

○森山委員長 ほかに質疑ございませんか。

ないようですので、これをもって質疑等を終わります。

それでは、理事者の方のご退室願います。

委員の方はお残り願います。

(理事者退席)

それでは、本日の委員会を受けまして、委員間討議をこれから行いたいと思います。

なお、委員間討議につきましては、当委員会の所管事項であります、病院を核としたまちづくりの推進について、今後、特に議論を深めるべき課題や論点についてご協議をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

8月に行いました調査の結果概要等を取りまとめたものを配付させていただきましたので、ごらんいただきますようお願いいたします。

この調査は、8月28日に実施をしたものでございます。調査先としまして、大阪府の桃坂コンフォガーデンに出向きまして、大阪赤十字病院の移転に伴って行われましたプロジェクトについて調査を行いました。調査の概要としましては、桃坂コンフォガーデンは、若者から高齢者まで多世代を支える病院と連携したまちづくりを目指して、多様な住まいの供給と高齢者施設、生活支援施設、診療所等の誘致を行いました。大阪赤十字病院との連携として、かかりつけ医療を提供する診療所から大阪赤十字病院への患者紹介状の発行や、診療所ドクターによる病院内設備の共同利用、病院関係者による保育所の利用等が行われていました。また、居住者等へのサービスとしては、診療所9科目共通の診察券の発行などが行われておりました。本県にとりましても、周辺地域と病院との連携したまちづくりを行うに当たって、このプロジェクトは非常に参考になると思いました。以上、調査の結果報告といたします。

では、これらの調査結果を含めまして、今後、当委員会で取り組むべき方向、また特に議論を深めるべき課題や論点等につきまして、思いやご意見等ございましたらいただきたいと思います。

それでは、ご発言を願いたいと思います。

○山村委員 ことしじゅうに平松地域のまちづくり基本構想が出ると聞いています。その基本構想がいきなり出てくるのではなくて、例えば、どんな状況になっているかとか……。

○森山委員長 現状ね。

○山村委員 やはり逐次報告があつたりして情報が提供されたほうが、住民の意見を聞いたり、またそれをここで反映することができるのではないかと思うので、どういう状況でこんなふうに進んでいますと向こうが言える状況になったら説明をしてもらおうとか、我々も含めた場で、そんなことも1回やってほしいと思つたりしています。どうでしょうか。

○森山委員長 そうですね。先ほどからそういうご意見も要望も上がっておりまして、そのとおりでと思います。

ほかにございませんか。

今の件は、基本構想が上がるまでに、その経過で言えるような状態になれば、その情報も提供してもらいながら、今年中に提出される基本構想を進めていくということでもいいですね。

○荻田委員 今も理事者に申しあげましたけれども、基本構想が出る前に、いろいろな地域との協議会や医師会との協議、あるいは奈良市との協議、こういったところの資料をできたらいただいたらいいかと思つますので、委員長からもしっかりとお伝えいただきたいと思つます。

○森山委員長 その途中で、希望するという事。それもそうです。先ほどのこととつながりますから。わかりました。

今のところはそれぐらいでよろしいですか。

それでは、ただいまのご意見を踏まえて、今後その方向でまた進めてまいりたいと思つます。

ほかに特にございませんか。

それでは、これで委員間討議を終わります。

以上をもちまして本日の委員会を終わります。どうもお疲れさまでございました。